

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



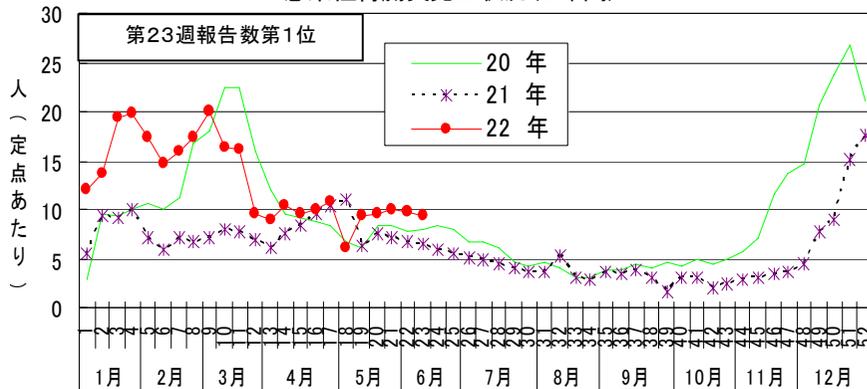
平成22年6月7日（月）～6月13日（日）〔平成22年第23週〕の感染症発生状況

第23週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 水痘 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

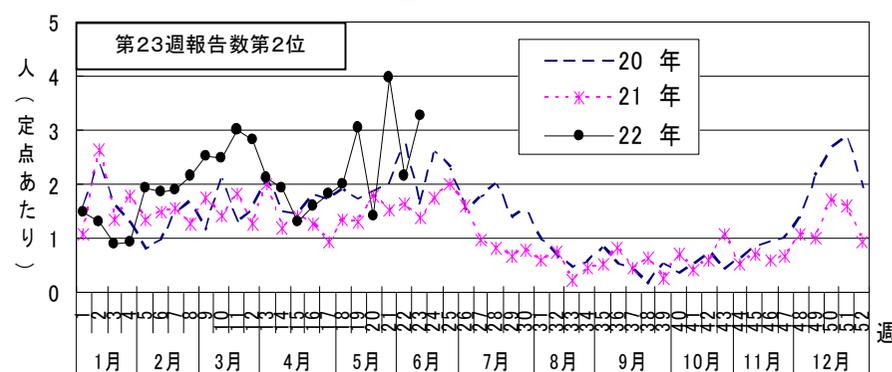
感染性胃腸炎が定点あたり9.30人と前週（9.79人）に比較して患者数はやや減少しております。

水痘は定点あたり3.24人と前週（2.15人）に比較して大幅に増加しており、過去10年間の同時期と比較すると平成12年に次いで高いレベルでの推移となっております。ヘルパンギーナは定点あたり1.64人と前週（2.79人）に比較して患者数は減少していますが、手足口病と咽頭結膜熱と合わせて、夏期に流行する疾患ですので、今後の発生動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況（3年間）



水痘発生状況（3年間）



今から注意！！～咽頭結膜熱（プール熱）～

これから楽しいプールが始まる時期です。そんな楽しいプールでも、感染症に感染してしまう可能性があります。咽頭結膜熱（プール熱）は7月8月をピークに小児（特に5歳以下）を中心に流行します。今後、咽頭結膜熱の患者が増加する兆しがありますので、次のことに注意して、楽しくプールで遊びましょう。

症状は！？

潜伏期 5～7 日を経過した後、39℃前後の発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状として、その他に頭痛、食欲不振、全身倦怠感等を訴え、3～5 日間程度持続します。

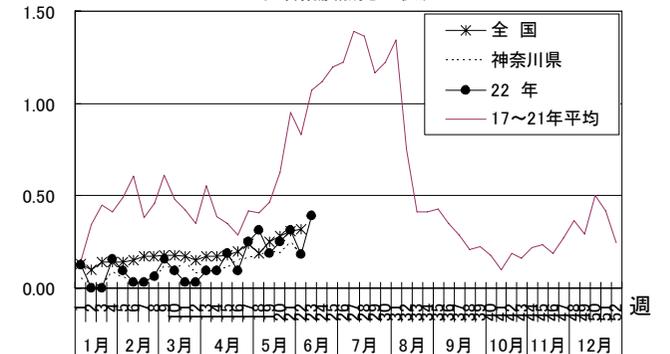
感染経路は！？

プールを介した場合には、ウイルスに汚染された水が直接目に侵入することが考えられています。また、プールでタオルを感染者と共用することで感染することもあります。それ以外では患者からのくしゃみや咳などのしぶきによる飛沫感染、または手指を介した接触感染が考えられています。

気をつけたいこと！！

予防として、感染者との密接な接触を避けること、流行時にうがいや手指の消毒を心がけましょう。また、水泳後にシャワーを行うとともに、タオルの共用は控えましょう。ときにはプールを一時的に閉鎖する必要もあるでしょう。

咽頭結膜熱発生状況



学校保健安全法での取り扱い

咽頭結膜熱は学校保健安全法において、第二種感染症とされています。出席停止期間の基準は次の通りです。
○主要症状が消退した後二日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により感染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。